

理論機関誌創刊号目次

- | | | |
|---|--------------------------|------|
| 1 | イグレン理論誌の発行にあたって | 芝 忠 |
| 2 | イグレン 30 年から学ぶこと | 芝 忠 |
| 3 | 地域活性化私論 私の秋田移住の 7 年間 | 宮川 豊 |
| 4 | 国際協力機構 (JICA) 本邦研修実施報告 1 | 加藤文男 |

理論機関誌第 2 号目次

- | | | |
|---|--------------------------|------|
| 1 | 「脱原発」で考える 第 32 回定期総会記念講演 | 金子和夫 |
| 2 | 「中小企業振興条例」の具備すべき内容とは何か | 愛 賢司 |

理論機関紙第 3 号目次

- | | | |
|---|------------------------------------|------|
| 1 | 異業種交流シフト 21 と企業視察研修会について | 有村千里 |
| 2 | 「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進条例」の
充実のために | 愛 賢司 |
| 3 | 学生は中小企業の広告をどう評価しているか | 芝 忠 |
| 4 | 新しい時代の茶の湯 | 渋谷英明 |
| 5 | 国際協力機構 (JICA) 本邦研修実施報告 2 | 加藤文男 |

理論機関誌第 4 号目次

- | | | |
|---|--------------------------|------|
| 1 | 公設試験研究機関の役割に関する考察 | 芝 忠 |
| 2 | モノづくりの効率化へ向けて | 山本俊夫 |
| 3 | フクシマ復興応援ネットワークの支援活動報告 | 加藤文男 |
| 4 | 県内の「中小企業振興条例」の到達点と今後の課題 | 愛 賢司 |
| 5 | 国際協力機構 (JICA) 本邦研修実施報告 3 | 加藤文男 |

理論機関誌第 5 号目次

- | | | |
|---|----------------------------|-------|
| 1 | 地球温暖化による極端気象に対応した水災害警報システム | 伊藤幸彦 |
| 2 | 重心位置測定器を開発して「特許をとれたぞ！」 | 横須賀健治 |
| 3 | わが国の異業種交流活動の発展史 その 1 | 芝 忠 |
| 4 | 身近な環境と健康 1 | 早川成昭 |
| 5 | 国際協力機構 (JICA) 本邦研修報告 4 | 加藤文男 |

理論機関誌第 6 号目次

- | | | |
|---|----------------------|------|
| 1 | わが国の異業種交流活動の発展史 その 2 | 芝 忠 |
| 2 | 身近な環境と健康 | 早川成昭 |
| 3 | 「中小企業振興条例」と「経済民主主義」 | 愛 賢司 |

理論機関誌第7号目次

- | | | |
|---|-----------------------|------|
| 1 | 大型モータ修理技術の一大革命 | 藤本俊美 |
| 2 | コラム集「春夏秋冬」その1 | 宮川 豊 |
| 3 | 現代 IT 社会におけるイグレンの存在価値 | 橋本真幸 |
| 4 | わが国の異業種交流活動の発展史 その3 | 芝 忠 |
| 5 | テクニカルショウヨコハマ 2018 に参加 | 芝 忠 |

理論機関誌第8号目次

- | | | |
|---|--|--------------|
| 1 | 「高周波衝撃弾性波法」による非破壊調査システムの開発 | 伊東 修
石川常夫 |
| 2 | モノづくり研究会報告
マス・カスタマイゼーション化を実践する宝電機工業 | 加藤文男 |
| 3 | コラム集「春夏秋冬」 その3 | 宮川 豊 |
| 4 | 北海道地震に遭遇して | 芝 忠 |
| 5 | 製造業の品質不正問題を考える | 加藤文男 |

編集後記

本年2月テクニカルショウヨコハマのセミナーにおいて株式会社テクノコンサルタントの伊東会長が発表した講演を更に詳細にした「ロボット・ドローンセンターで減災防災社会に貢献」と題する論文として報告いただきました。このセンターは西日本におけるドローンの開発の拠点として技術者の要請に貢献することが期待されています。既に建設に着手し、11月には完成予定です。

昨年発足したモノづくり交流・政策研究会では株式会社山喜の工場見学会を実施しました。経過とともに3名の感想を掲載しました。

宮川常務理事の紀行文コラム集「春夏秋冬」は今回が最終回です。イグレン会員の同友会活動の一端を伺うことができます。

次号第10号は、2020年1月を発行予定しています。できるだけ広い範囲から自由な内容で多くの方々のご投稿を歓迎します。

締め切りは、2019年12月15日です。 加藤文男記